



ながの 社会福祉士会 NEWS

■発行：社団法人長野県社会福祉士会 ■会長：関 裕一
 ■事務局：〒380-0836 長野市南県町685-2 長野県食糧会館6F
 TEL：026(266)0294 FAX：026(266)0339 E-mail：hope@nacsw.com
<http://www4.ocn.ne.jp/~nacsw/> ■編集：広報委員会

目次

巻頭言	1	実務指導者研修会報告	4～5
新年のご挨拶	2	臨時総会報告	5～6
11月11日は介護の日	2	重心シンポ	6
地域包括支援センター実務研修報告	3	地区・委員会だより	6～8
中信地区 記録映画『葦牙あしかび』 上映会を行いました	4	今後のスケジュール	8

巻頭言

会長挨拶

関 裕 一

新年明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願いします。

正月そろそろ暗い話題ですが、去年は虐待のニュースが異様に多かったように感じました。児童虐待ではいつもどおり「虐待ではない、しつけだ」という、親の勝手な理屈のものもありましたが、大阪のネグレクトの事件のように、孤立した育児のなかでの虐待もいくつか報道されました。地域の中で孤立し、福祉にたどり着く前の虐待として、注目していく必要があると感じています。

一方、高齢者虐待では、昨年9月30日付で厚労省より、「高齢者虐待の解釈について」という文書が出ています。これは、関東地方のある施設で起きた職員による「入所者を車いすやベッド等から移動させる際に必要以上に身体を高く持ち上げた」「裸の入所者や、入所者の顔に落書きをして、携帯電話で撮影し他の職員に見せた」といった行為を、当該施設も県や市町村も「きわめて不適切な行為であるが虐待ではない」と判断したことに対して出されたものです。

11月に発表された、21年度の高齢者虐待に関する調査報告では、養護者による高齢者虐待は増加しているものの、「養介護施設従事者等」による虐待は減少していると報告されています。長野県では、「養介護施設従事者等の虐待はない」と発表されています。本当に「減っている(ない)」のであれば、大変うれしいことなのですが、もし前述の事例のように、関係者がその問題を意識できなかったことで「虐待はない」となっているのであれば大きな問題です。

「虐待や権利侵害を意識できないということ」は、職業倫理や利用者の権利擁護の意識がないと、我々社会福祉士も陥る可能性のあることであると感じています。「いつものことだから」とか「この人は理解できないのだから」といった部分で、権利侵害してしまうことがあるのではないのでしょうか。

社会福祉士会としても、権利擁護や倫理に関する啓発を、福祉関係者や地域に対して「襟を正して」取り組んで行ければと考えています。皆さんも日々の活動の中で権利侵害には敏感になっていただき、自分の職場や仲間も含め「権利侵害」が起きないように働きかけていただければと感じています。



新年のご挨拶

副会長 村岡 裕

新年おめでとうございます。

私事で恐縮ですが、私は昨年度より、大学院で学習しています。今年度は修了の年です。

12月以降は、年末年始の忘・新年会はすべてキャンセルし、夜は携帯の電源も切って論文作成に没頭していました。

福祉に関することを研究をしたのですが、経済学部には籍を置いたものですから、財政学や統計学、さらには地方自治法などを学習する羽目になりました。

しかし、おかげで福祉を知るためには「福祉をいったん外から見たほうが良い」ということを学びました。

個人も組織も、生き残れる条件は、環境の変化に対応できるかどうかです。

改めて、社会福祉士としての自分自身、また社会福祉士会はどうだろうかと考えます。

私は今年、「福祉」以外の視点でこれらを検証してみようと思っています。

本年もよろしく願いいたします。

副会長 大澤 孝史

あけましておめでとうございます。

私はスポーツを見るのが好きですが、鍛え抜いた体と心を持って精一杯のプレーにより多くの感動を与えてくれるところに特に魅力を感じています。

そしてプレーヤーが語る言葉の中に“ファンのために最高のプレーをしたい”というフレーズを良く耳にしますが、いつも心にもち続けていかなければならない大事な考えだと思えます。

県社会福祉士会では自己の資格を生かすためスキルアップの出来る様々な研修会等を開催しているもののように参加が得られていないこともあります。 “会員の皆さんのために最高の研修をしたい”この思いを胸にいだいて活動をしていきたいと思えますので、一つでも二つでも研修会等にあしを運んでみて下さい。本年もよろしく願いいたします。

副会長 内田 宏明

あけましておめでとうございます。

しかしながら、社会的な情勢は浮かれているものではありません。また、社会福祉士会も大きな曲がり角を迎えています。

2009年度の国家試験では、はじめて合格者数が前年を下回りました。いよいよ、社会福祉士も数から質の時代に入ったということを、このことは端的に示しています。

日本社会福祉士会でも生涯研修体系改革に取り組んでおります。長野県においても国、県の委託事業やモデル事業にチャレンジしつつ、会員諸氏に対する求心力を回復させていく所存ですので、ご理解願います。

副会長 坂口 功

あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、新たな気持ちで新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。私ごとですが、昨年は職場での抱負で、1年掛けて5kgやせると宣言し、見事に1kg増量しまして、目標達成とはならず。目の前を白いタイヤキが泳いでいる次第です。今年は敢えて抱負は語らず、黙して努力する所存です。

さて、長野県社会福祉士会は、「ひとりひとりがそのひとらしくあり続けることを支える」をスローガンに活動し、県民の福祉の向上を目指して、様々な事業に取り組んでいます。新規事業も多く、会員の皆さんの活動参加のもと、一步一步進めています。昨年11月は若き実行委員長のもと社会福祉士会会員を中心に、記録映画「葦牙あしかび～こどもが拓く未来～」上映会を松本大学で開催し、200余名の参加者を集めました。この取組みは実行委員長の「上映会を開催し、大勢の方に児童虐待の現状を知らせたい」という、つぶやきから始まっています。ひとりの会員の思いを実現する仲間が集うことは社会福祉士会の財産です。過去にも会員発案の様々なプロジェクトを実現して来ました。ご自分の夢や思いを持つ、会員の皆さん！今年の抱負を語り、次はあなたの企画で会を動かしてみませんか？

「11月11日は介護の日」委員として参加して…

北信地区 小林 俊之

去る11月11日に「いい日いい日介護の日」を、佐久勤労者福祉センターにて開催いたしました。当日は、とても盛り上がりました。初めに、当日午後のシンポジウムコーディネーターとして関会長。また当日お手伝い頂きました、東信地区の樋沢さんを始めとして当日までの連絡調整をしていただいた事務局やきっと当日は私が知らなかっただけで、大勢参加いただいた、社会福祉士会のメンバーの皆様は厚く御礼を申し上げます。

無事に終えることができたのも、ご協力いただいた皆さまのおかげであります。

さて、だいたいにして、無事に終わったから良かったようなものの、3月にとある方から「相談があるのだけ

ど…介護の日の委員やってくれないかな…」とお話があった時には、正直ここまで色々…（言うほどはないのですが…）あるとは思っていませんでした。

「あ、いいっすよ!!」と答えた自分にちょっと「人が良すぎたか…」と後悔をしておりました。（言うほどじゃないのですが…）

冗談はさておき、3月より実行委員として、顔合わせがあり、6団体が中心として委員会を行っていることを知り、そして、今度は理事会に通して審議を図ることを次の段階で（同じ雰囲気の委員会と思いきや、各種団体長さんがお見えになっていました）知ることになりました。正直、私は場違いではないだろうか…と、場の空気に慣れるまでに時間がかかったことを覚えています。

委員として、当初は行くだけでいいのかな？という感覚でしたが、私の性分なのでしょう…つつい盛り上げたくってしまい、他の方の意見に賛同したり、逆に反対したり。そして、何よりも知らない事だらけで、前は回はどうか？などなど、我儘勝手に言い、多分社会福祉士会の評判を落としてしまったのではないかと心配になりました。

が、本当にそのような場に参加させていただいたので、介護の日について自然に学ぶことができました。

当初、理事会では予算の心配があり、大規模な開催を不可であったり、内容についてもどこまでできるのか？と心配の声があがりましたが、県内4地区に分けての開催や内容についても、ある程度予算の枠内に収まるようになり、そして、新たな収入源としてまた、広報も兼ねてのぼり旗の作成など…実際には

介護の日の事務局が実質行っていたのですが、特に大きな混乱もなく、当日を迎えることができました。

当日は、午前・午後とも満席で、ちょっと要約筆記の場所に音が流れない…などのトラブルはありましたが、大きな問題もなく無事に成功することができました。

私は舞台袖にて、舞台上のお手伝いをさせていただきましたが、三四郎さんのお話や、午後のシンポジウムと改めて、介護の日について自分なりに考える時間を頂いたように思います。

さて、介護の日の委員として、社会福祉士会としての関わり・役割として「プロの相談員」としての資格を生かすには、やはり介護のつながりが必要だな…と思います。

今回、他の団体の方とまさかこんな形でご縁するとは思っていませんでしたが、介護を一つの組織で賄うのではなく、各種の専門性を発揮してプロとしてのチームケアが子供・障害者・高齢者に必要ではないでしょうか。ともすれば、自己の専門性の誇示になりがちな分野だけに、今回の委員としての立場・役割から学ぶことが多かったです。

本当に良い機会を頂きました。ありがとうございました。

この経験を私だけではもったいないので、次回はぜひ！これを最後まで読んでしまったあなたに、お願いいたします。（決して逃げているわけではありません…）

改めて、関会長を始め皆様、介護の日はお疲れさまでした。



地域包括支援センター実務研修報告

二村高明

平成22年11月1日、松本市総合社会福祉センター大会議室において、地域包括支援センター実務研修を開催しました。

研修は、講義、事例検討、グループワークの3部形式で行われました。まず、日本福祉大学 社会福祉学部 准教授の原田正樹先生より「コミュニティアセスメントの視点と方法」をテーマにご講演をいただきました。ワーカーは、目的を持って地域を見る必要があり、ニーズ（声）を大切に地域に働きかけることが重要であること、また、地域でのセットワーク作り（組織化）は、フィードバック（信頼関係）に基づくものであること。などご講演いただきました。

講演の後、武石域包括支援センターの細野さんと松本市河西部地域包括支援セ



ンターの塩原さんから事例提供をいただき、提供されたそれぞれの事例に対して、先生と事例提供者の間で質疑応答があり、平行して先生からの解説をいただくことで、事例に対する理解が深まりました。単なる事例発表でなく、十分な事例検討、研究を行うことができたと感じました。

ここまでの講演と事例研究の後、「地域への働きかけ」をテーマに事例から得られた課題や質問などを参考にグループワークを行い、現在の自分たちの課題と解決方法について意見交換を行いました。



事例を通じて講義の内容を理解することもでき、また、グループワークを行うことで今後の活動に対して、参加者それぞれが、何らかの方向性を見出したのではないかと思います。

当日は、会員、非会員を合わせ40名を超える方の参加がありました。



中信地区

記録映画『葦牙あしかび』 松本上映会を行いました

香西 崇

中信地区の会員が中心となって企画しました記録映画『葦牙』松本上映会は、11月6日に松本大学にて開催し、たくさんの方々にご来場いただき、大成功で終わることができました。来場された方々からはたくさんの声が寄せられました。その中でも特に、児童養護の分野に限らず子どもとその親に対する社会的な支援が乏しいことを嘆く声が多いことが印象に残りました。子ども家庭福祉の分野に携わる者として、子どもとその親への支援の充実の必要性について広くアピールする使命が課せられていることを改めて痛感しました。

この上映会は、私の「この映画を松本でも上映してみたい」という思いつきから始まりました。この思いつきを中信地区で取り上げていただき、上映会に協力していただける会員を募った結果、多くの会員の方に協力していただけることになり、上映会に向けての広報やチケット販売などを着実に進めることができました。また、今回の活動を通し、地区の会員同士の交流も深めることができました。

上映会の成功はご協力いただいた方々ひとりひとりの自発的・献身的な行動の積み重ねによるものと確信しています。社会福祉士会の存在無しに私ひとりの力でメンバーを募り、上映会を企画することは不可能でした。一会員の思いつきをこのように大きな活動として結実させることのできる社会福祉士会の力の大きさを実感しました。今後も、ひとりひとりの会員の、「これをやってみたい」・「このようにしていきたい」といった声を拾い上げて、それを実現できる地区となっていくことを願っています。中信地区の皆さん、ぜひ声をあげていきましょう。



実習指導者講習会報告

実習指導者養成講習会 担当副会長 内田 宏 明

さる12月4,5日にJ A長野県ビルにおいて、「社会福祉士実習指導者講習会」を開催し、105名の参加者を得ました。ご存知の通り、この講習会を受けないと2012年度以降は社会福祉士の実習生の受け入れはできなくなります。後進の育成のために必要不可欠な位置づけです。

2日間にわたるカリキュラムは、ぎゅうぎゅうづめでかなりハードなものでしたが、厚生労働省の示す内容をコンパクトにするとどうしても、そうなってしまいます。スタッフ不足のため、運営にも多々課題が残りました。その中でも、さすがに現場の社会福祉士らしく、演習においてはみなさん方、見事なロールプレイを演じておられました。

来年度に関しても、50名定員で実施する予定ですので、後進育成に意欲のある方は今後の広報にご注意していただきたいと思います。



2010年度社会福祉士実習指導者講習会感想文

日々精進 中川峻介

なんて長い講義なんだ！ 12月4日と5日、朝9時から17時過ぎまでみっちり行われた実習指導者講習。行きがけにコーヒーと、刺激が強めのタブレット菓子を2つ購入し万全の体制で臨んだ。

受付を済ませ、資料に添付されている名簿を見ると、県下でもベテランと呼ばれる方々のお名前がズラリ。就職して5年が経ち、いつまでも新人の気分であったが、後輩を育てる立場になっていかなければならないと遅ればせながら改めて実感をした。

講義の内容は実習指導者概論、実習マネジメント論、実習プログラミング論、実習スーパービジョン論とどれも理論的で大変興味深いものだった（余談だがやはり専門職の支援は理論的に行われる必要があり、経験と理論はバランスを保たねばならないと日々感じている）。特にスーパーバイズの演習では、実習生だった頃を思い出し、実習生の視点で見ることでもできたし、指導者としての視点も体験することができた。

どうしたら実習生に意味ある実習を提供できるのか、実習施設・実習指導者としてどんなスタンスで実習生に教えるのか。これから自分自身、あるいは職場で考えていかななくてはならない多くの課題を投げかかれた研修であった。ただ、一つ言えるのは日々の仕事がぶれてはならないし、実習生に見られても恥ずかしくない福祉専門職らしい仕事をしなければならないということである。先人の「価値・技術・知識」を自分のものにし、後輩に伝承していく。これは自らの専門職としての重責であると感じている。「資格が仕事をするのではなく、人が仕事をするのだ」私の先輩がよく言う言葉だが、正にその通り。日々勉強、日々精進である。講師の皆様、スタッフの皆様、ありがとうございました。

★おまけ…

今回の研修では社会福祉士会に属していない方も沢山出席されていた。やはり社会福祉士は上でも書いた通り日々勉強、日々精進であることを鑑みるに、会への入会は非常に有益であると考えている。例えば、ある専門家が「私は専門家だけど、職能団体には入っていないんだ」と言われたら、通常であればその専門家への信用は落ちるだろう。それは勉強の機会が他の専門家に比べて少ないことを意味している。勉強の機会が他より少ない専門家に誰も相談したいとは思わないだろう。

やはり会への入会は自らの専門性を担保するという意味でも絶対必要であると感じている。

臨時総会報告

臨時総会を終えて

会長 関 裕 一

12月18日、長野市のTOiGOで臨時総会が開催され、10月末現在の会員数756名のうち、当日出席者数16名、書面表決者数592名で総会は成立し、承認602名、否承認1名、白票5名で、事務局の移転に関する定款変更が承認されました。今後県への報告・法務局への登記等の事務作業はありますが、大きな山場は越えたというところでしょうか。

ご存知のとおり、今回は10月の臨時総会が定款変更のための4分の3の承認を得ることができなかったことによる出直しの総会であったため、運営委員をはじめ多くの会員の皆様のご協力で総会参加の呼びかけを行いました。なんと、総会前日に出席予定者・書面表決者含めて4分の3を超えた、という綱渡りの総会でもありました。



今回表決にあたり、いただいたご意見と執行部としての回答は次のとおりです。

Q1：現在の会員数や経理状況からみて、独立した事務局を持つ必要があるのか疑問。

A1：それぞれの団体の事務量や保存書類、機材等が増え、合同事務所が手狭になってたこと、また、独立による家賃等の増は年間4万円程度であることから、今回移転を行ったものです。

Q2：南信から考えると、事務局が長野にある事には疑問もある。松本に移すことも検討したのか。

A2：事務局が長野にあるのは、主管する官庁でもある県との連絡調整を行うことが多いことからであり、他の団体の事務局の多くも長野市にあります。

長野市が遠い皆さんへの対応として、定期総会開催の県内持ち回り、会議の松本開催、研修会等の開催、地区活動の充実等長野以外の場所での会の行事も多く行っていますので、お近くでの開催の行事等への参加をお願いします。

Q3：なぜ、前回の臨時総会で不成立になったのか、その対応策はどうなっているか、また、数名しか出席しない総会を開催し書面表決で対応しようと言う姿勢はいかがなものか。

A3：前回の臨時総会開催の説明のとおり定款の議決に伴う4分の3の条文を見落とすことによります。10月

の臨時総会は過半数の出席、圧倒的多数による承認でしたので安心してしまい、4分の3の条項を確認しなかったのが原因です。

今後については、役員が規則集を持ち、規則に沿った会の運営を行うように対応済みです。

総会の出席に関して言えば、会員が750人を超えた現在、会員全員が集まることのできる会場設定は難しいものの、定期総会の会場は収容人数100～300名程度の会場で行っています。臨時総会については、参加者の負担減と経費節減のため、他の行事と抱き合わせでの開催としましたが、当たり前のことですが、総会に参加していただきたい旨は通知に記載してあります。

重症心身障がい児・者シンポジウム in 佐久2010 報告

三村 仁志

障害者委員会では、平成22年11月13日(土)佐久大学において「重症心身障がい児・者シンポジウム in 佐久2010」を開催しました。当日は佐久大学講堂に100人を超える方達の参加が得られました。県立こども病院長期入院児等支援コーディネーター河野千夏ドクターから「全県の状況と地域生活の視点」とし基調講演を頂いた後、障害者委員会委員長唐木 昭（社会福祉法人かりがね福祉会）さんをコーディネーターにシンポジウムを行いました。



シンポジストからは、日頃の取り組みや重症心身障がいを取り巻く現状が発表されました。どんなに障がいが高くとも、生きがいをもって充実した生活をしたい。この当たり前のことをどう実現し、どう支えるかを考える良い機会となりました。

今回のシンポジウムでは佐久大学の小村三千代先生を始め、多くの先生に全面的なご協力を頂きました。休憩室では先生と学生さんが障害をお持ちの方達の居場所を作って頂き、ご家族は安心して参加して頂きました。また、佐久大学榎山理事長さんのお仲間のライオンズクラブの方達のボランティアとして車いすの移動を援助して頂きました。このつながりはまた貴重な宝となる事でしょう。

参加者のアンケートには「今後の課題、また自分として、何ができるか考える機会となりました。」「継続して企画して欲しい。」との意見がありました。その中に、ご兄弟に重度の障がいをお持ちの方がいて、30年前にはその存在すら明らかに出来なかった。そのことでご両親は悲しい思いをした。今後そのような思いをせずに済むよう手厚い支援が願います。しかし、「医師や職員不足は深刻で食事面や入浴介助にも影響しています。始まったばかりの重症児支援、私達もできる事に取り組むことが大切だと思います。本日はありがとうございました。これからは地域で活動をして下さっている団体とも連絡を取っていききたいです。」とありました。我々も専門職として、時代に、地域に、ニーズに向き合っていきたいと思います。



地区だより



東信地区

細野みどり

地区学習会報告

日時：22年10月2日(土) 13:00～15:00
会場：上田市ふれあい福祉センター
参加者：3名
内容：評価シート研修
感想：

上小地区上田ブロックでは10月2日(土) 上田市ふれあい福祉センターにて実践報告「自己評価から始めた実践について」と題し、会員でもある春原伸行氏に昨年度ネットワーク研修の報告をいただきました。

評価シートを使っての地域包括支援センターにおけるネットワークの構築と活用についてのお話う

かがえ、また、春原氏の地域包括支援センター職員としての日頃の取り組みについてもお聞きすることができました。

地域包括支援センターの研修でしたが、ネットワークについて学ぶことができ他分野でも活用できる学習会でした。

◆佐久地区 活動報告

1. 現在までの活動

- 10/9 佐久地区学習会
事例検討1件、情報交換 17名
- 11/13 佐久地区学習会
事例検討1件、情報交換 15名

2. 今後の予定

- 12/11 佐久地区学習会
事例検討2件、情報交換

北 信 地 区

林部 智子

★第4回学習会/車座集會/忘年会報告

12月18日(土) 午後2時～4時15分まで学習会を行いました。会員による実践報告として、原山直人氏(宅老所手と手)『小規模多機能型居宅介護の実際』、関崎豊氏(ばあとなあ長野地区運営委員)『北信地域の成年後見を取り巻く動向について』にお話いただきました。他地区からも参加いただき、参加者は25名でした。

(参加者の感想) ※一部抜粋

- ・権利擁護活動を進めるには社会福祉士が他職種の方々と連携をとりながら主となってアクションを起こしていけるよう皆で力をつけていきたいと思っています。
- ・久しぶりに介護現場の実情にふれることが出来ました。
- ・小規模多機能の支援ニーズは高いと想いますが、手と手のように地域に根ざしていける事業所はまだまだ数少ないと思いますが、今後も笑顔に包まれる支援を期待致します。
- ・報告される方はご苦労だと思いますが、聞く側にとっては現場のナマの声が聞けてとても有意義に思います。
- ・お二人の実践報告は非常に刺激的でした。これから施設がどうあるべきか利用者のニーズに応えるという姿勢がとても印象に残りました。

同日、午後4時30分～5時30分まで車座集會を行いました。全員の顔が見えるよう輪になって自由な雰囲気の中、会長、副会長と共に活発な意見交換、情報交換をすることが出来ました。参加者は24名でした。

そして、午後6時過ぎ～この時期恒例となりました忘年会を行いました。参加者は22名、大いに盛り上がり飲みニケーションの楽しさや大切さを改めて感じました。



車座集會の様子

★次回の学習会について

2月19日(土)に今年度最後の学習会を行います。詳細につきましては同封のご案内チラシにてご確認ください。皆さんの参加をお待ちしています。



【活動報告】

11月10日(水) 19:00～21:00

塩尻市総合文化センターにて

「医師との連携を考える

～ドクターと素敵にティータイムを～」

講師 医療法人雄久会塩尻病院 福澤 通夫 医師

参加者 13名

(参加者の声)

ティータイム感覚で気軽に話せる機会をとの案内に誘われ参加しました。福澤先生の人柄とざっくばらんなお話しで、普段の業務の中で医師との連携を図る際に感じていた「敷居の高さ」が少し低くなったように感じます。福澤先生の「その人のためにと真剣に考えての連携は医師としてもありがたい話、しかし問合せの後、気にしているのに報告がない。」との言葉は日常の業務を反省する機会となりました。

また、医師会の学習や社会貢献活動、医師間の連携についてのお話は、社会福祉士が専門職としてどうあるべきかを考えるための示唆に富むものでした。

塩尻市社会福祉協議会 岩佐 慶さん

12月9日(木) 19:00～21:00

安曇野市 碌山公園研成ホール研修室

『認知症疾患医療センターの事業内容と

活用について』

内容・講師

1. 認知症疾患医療センターについて
安曇総合病院医療相談室 大塚 康平氏
2. 認知症連携強化事業の目的と役割について
池田町地域包括支援センター 松岡由美子氏
3. 認知症対策連携強化事業について
池田町地域包括支援センター 土崎真由美氏
4. 質疑

参加者 会員11名 非会員6名(内3名講師補助)

(参加者の声)

みぞれ混じりの雨になったこの日、久しぶりに学習会へ参加させていただきました。

昨今、認知症への関心は高まっているものの、その症状は様々、どの段階で相談や診断をしていけばよいのかは介護者されている方の悩みだと思います。だからこそ認知症疾患医療センターの事業が今後もっと周知され、医療と介護の連携がとれば、安心して支えていけるようになるかもしれません。中信地区の中だけでも取り組みの違いを感じましたが、私自身も情報提供していけるようになりたいと思いました。

色々な分野で活躍されている方たちから貴重な意見を伺うことができました。ありがとうございました。

学習会が終わり外に出ると車にはうっすら雪が積もっていました。

すずらんデイサービス 岡本 佳央さん

【活動予告】

～利用者を理解するための面接を考える～

日時 平成23年1月26日(水) 19:00～21:00

場所 松本市南部公民館(なんなんひろば)会議室3

講師 松本大学松商短期大学部

廣瀬 豊氏(中信地区会員)

参加費 会員は無料。非会員は500円

～中信地区の2011年度の活動について話し合います～
 日 時 平成23年 2月 4日(金) 19:00～20:30
 場 所 松本市南部公民館(なんなんひろば)会議室 3

当日参加が難しい方も、アンケートにご協力いただき、より多くの皆様のご意見をお聞かせ下さい。

南信地区

◆上伊那ブロック

上伊那地区11月学習会報告



有賀 智美

伊那警察署生活安全課長 真岸警部に講師をお願いし、「高齢者や障害者が巻き込まれやすい犯罪とその防止策について」をテーマに学習会が行われました。

高齢者をねらい悪質商法が行われており、自分は被害にあわないと思っている人こそ被害にあうことが多いようです。そのときの心理状況、家庭環境等のタイミングによっては自分も被害者になりうることを心得、すぐに決断せず誰かに相談することが大事だというお話がありました。最後には普段疑問に感じられていることへの質問や、ケースへの対応について意見交換が活発に行われました。

小松 和子

上伊那地区では例年忘年会を開催しておりましたが、今年は都合により新年会(1月8日)となりました。2月は通常通り第3月曜(21日)に学習会を行います。内容は、未定です。

決まり次第お知らせしますので、大勢の皆さんの参加をお願いいたします。

委員会だより

権利擁護センターぱあとあななの

坂口 功

≪実績と予定≫

- 12月18日(土) 「第2回支部委託研修運営委員会(反省会)」・県士会事務局・【出席者】関会長、小池達也氏、小林彰氏、金川優子氏、新保絵里氏、坂口功。
- 1月29日(土) 「第2回成年後見人養成研修連絡調整会議」・東京都・【出席者】金川優子氏。
- 2月5日(土) 「ぱあとあななの運営委員会」・松本市南部公民館・【参加対象者】ぱあとあな地区運営委員18名、活用講座運営委員4名。
- ぱあとあな名簿登録者の地区活動(※センター把握分のみ掲載)
 - (1) 隔月開催「東信地区リーガルサポートとぱあとあなの合同学習会」・東御市。

- (2) 3カ月1回開催「中信地区リーガルとぱあとあな合同学習会」・松本市。その他。

子ども家庭分野専門委員会

子ども家庭分野専門委員長 内田 宏明

以下の要領で委員会を開催したいと思います。来年度については、日本社会福祉士会の委員会と積極的に連動していこうと思います。

日 時: 1月23日(日) 10:00～14:00

内 容: 来年度事業について

- ・SSW養成講座企画
- ・子どもの権利条例への動き

場 所: 松本市南部公民館視聴覚室

※ご参加の方は、資料の用意の準備もありますので、

kodomopost@net1.s-net21.ne.jp

まで、メールを下さい。

☆☆☆ 今後のスケジュール ☆☆☆

1月

- 22日(土) 東信車座集会
- 諏訪ブロック公開講座
- 南信州ブロック新年会
- 26日(水) 中信学習会
- 29日(土) 運営委員会(千曲市)
- ～30日(日)



2月

- 7日(月) 広報125号原稿締め切り日
- 14日(月) 広報125号同封印チラシ原稿締め切り日
- 17日(木) 南信州学習会
- 19日(土) 第3回理事会、北信学習会
- 25日(金) 広報125号発行



3月

- 9日(水) 運営委員会(松本市)
- 12日(土) 日本社会福祉士会総会
- 19日(土) 第8回定期総会
- 第5回まるごと学会(長野市)
- 20日(日) 23年度第1回運営委員会(長野市)



◎ 入会状況(平成22年12月末現在)

- * 会員数: 762人
- * 新入会累計: 82人
- * 入会率: 33.54%